

平成29年度

工業標準化事業表彰

平成29年10月23日

経 済 産 業 省



# 目 次

1. 工業標準化事業表彰 内閣総理大臣表彰	(個人 1名) . . . . .	1
2. 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰 (個人)	(個人 20名) . . . . .	2
3. 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰 (組織)	(組織 2組織) . . . . .	7
4. 国際標準化貢献者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 21名) . . . . .	8
5. 国際標準化奨励者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 3名) . . . . .	13
6. 工業標準化功労者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 7名、組織 3組織) . . .	14



## 平成29年度工業標準化事業表彰 内閣総理大臣表彰受賞者

柴田 彰 (しばた あきら)  
自動認識コンサルタント 代表 (70歳)

### 【略 歴】

1971年	日本電装株式会社入社
1992年～1994年	QRコードの開発に参加
1995年～	QRコードの国際標準化活動を推進
1996年～2011年	ISO/IEC JTC1/SC31 (自動認識及びデータ取得技術) 国内委員長
1993年～2013年	QRコードに関する各種 JIS 原案作成委員長を歴任
2001年	株式会社デンソーウェーブに出向
2003年～	QRコード/マイクロ QRコードの普及活動を推進
2011年	株式会社デンソーウェーブ退社
2011年	自動認識コンサルタント設立

### 【主な功績】

1. 日本で発明・開発された技術である二次元コードバーコードである QR コードの推進者。  
JIS 原案作成委員長として取りまとめた数多くの規格の国際標準化を推進し、同コードの国際規格の審議を行う ISO/IEC JTC1/SC31 (自動認識及びデータ取得技術) 国内委員長及び国際規格原案作成者として、国際規格成立に貢献。  
同コードは 1997 年に業界規格として制定され、1999 年に JIS X 0510 に採用された。これらを基礎に JTC1/SC31 の国内委員長として、国内の意見を取りまとめ国際提案を行った。JTC1/SC31 では、国際規格原案作成者として国際標準化活動の中心的役割を果たし、2000 年に ISO/IEC 18004 として制定された。
2. QR コードは、当初、自動車部品の効率的な流通を目的に開発されたが、省スペースに膨大な情報量が伝達可能であるという特徴に加え、漢字をはじめとする各国の言語に対応可能なように開発された。QR コード以外の二次元バーコードは、米国の発明であり、自動車、エレクトロニクス業界での採用競争が熾烈であったため、国際規格に採用された意義は大きい。氏は、その後数多くの同コードに関する国際標準化を推進したが、2005 年には、電子部品を対象としていた国際規格を全ての部品・製品に拡大した規格の成立、2006 年には、航空宇宙産業の部品・製品に表示する規格の成立等に中心的役割を果たし、自動車業界にとどまらずあらゆる企業活動において情報伝達を間違いなく行う手段として活用できるよう国際標準化を推進した。また、漢字等の多言語に対応可能であるため、中国、韓国、ベトナムといったアジア圏で国家規格に採用されるだけでなく、欧米にも普及しつつある。
3. 現在では、航空券や入場券等の情報表示、伝達手段として QR コードを用い、携帯電話に搭載されたアプリケーションソフトを用いて同コードを読み取ることは一般的となっており、氏の国際標準化活動の結果、QR コードは、産業界のみならず、一般の人々の生活にも広く普及しており、経済的波及効果は大である。【敬称略】

平成29年度工業標準化事業表彰経済産業大臣表彰受賞者

個人

NO	氏名	所属	主な功績
1	ありた よしこ 有田 芳子	主婦連合会 会長	JISC 総会、JISC 環境・資源循環専門委員会、ISO/TC242（エネルギーマネジメント）、TC257（省エネルギーの評価・検証）合同国内審議委員会など規格に関連する多くの会議に消費者団体からの委員として参加。消費者の安全・安心など、消費者・生活者の目線から意見を述べ、規格作成に反映させ、国民生活の向上に寄与。また、幼児用玩具の安全等の調査研究活動をリード。さらに、消費者に身近な規格、標準をテーマとした一般消費者向け学習会を開催、講師を務め、規格の普及啓発に大きく貢献。
2	いとう さとし 伊藤 勲	新日鉄住金エンジニアリング株式会社 顧問	ISO/TC107（金属及び無機質皮膜）/SC7（金属めっき用腐食試験）国際議長、JIS Z2371（塩水噴霧試験方法）改正原案作成委員会委員長として、JISとISOとの整合化に貢献。また、ISO/TC156（金属及び合金の腐食）/WG11（電気化学腐食試験）のコンビーナを務めるとともに、プロジェクトリーダーとしてISO 15158（ステンレス鋼の孔食電位試験方法）及びISO 17474（電気化学腐食試験方法における記述方法）の策定を主導。日本提案を最大限反映したISO規格の発行は関連業界の発展に大きく寄与。
3	うえまつ よしのぶ 植松 慶生	公益財団法人日本適合性認定協会 執行理事 認定センター 副センター長	第三者適合性認定制度の標準化及び普及活動に積極的に携わるとともに、国際的な認定機関が加盟するAPLAC（アジア太平洋試験所認定協力機構）理事職を務めるなど、日本のプレゼンスを向上。また、ISO総会、TMB会議における各種討議においてISO/CASCO（適合性評価委員会）関係の委員として代表し、発言。長年にわたり国際標準及び適合性評価活動で我が国産業界の発展に尽力。特に試験所認定制度の各種精度管理の信頼性を向上させ、普及に貢献。
4	おだ ゆたか 小田 豊	学校法人東京歯科大学 名誉教授	長年にわたり歯科材料のJIS制定・改正審議に携わるとともに、ISO/TC106（歯科）のエキスパートを務め、JISとISOとの整合化に尽力。また、歯科材料器械分野の標準化の重要性について、大学研究機関、学会及び歯科産業界への普及啓発を積極的に進め、後継者育成に貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
5	こばやし のぶゆき 小林 信之	一般社団法人日本 クレーン協会 技 術審議会会長	ISO/TC96（クレーン及び関連装置）/SC5（使用・操作及び保守）の国際幹事と国際議長を長年務め、さらに、SC10（設計原則及び要求事項）/WG（耐震設計原則）のプロジェクトリーダーとして、日本提案の ISO11031(クレーン-耐震設計原則)の国際標準化に尽力。また、JIS 原案作成委員会委員長等の要職を歴任し、JIS 原案及び団体規格の制定に尽力。クレーンの工業標準化/国際標準化に大きく貢献。
6	こみやま としひろ 込山 俊博	日本電気株式会社 S I・サービス& エンジニアリング 統括ユニット ソ フトウェアエンジ ニアリング本部 エグゼクティブエ キスパート	JTC 1/SC 7（ソフトウェア及びシステム技術）/WG 6（ソフトウェア製品及びシステムの品質）の国際セクレタリ・国際コンビーナとして、SC 7/WG 6 小委員会幹事として、次世代国際規格 ISO/IEC 25000 SQuaRE シリーズ（システム及びソフトウェア製品の品質要求及び評価）の制定に貢献。
7	こめや かつとし 米屋 勝利	国立大学法人横浜 国立大学 名誉教 授	ISO/TC206（ファインセラミックス）の設立に参画し、同 TC の設立及び日本の幹事国引受に貢献。主要標準化委員会の委員長/委員を務め、ファインセラミックスの標準化活動の推進に多大な尽力・貢献。先端機器のキー部品として注目される転がり軸受用窒化けい素材の JIS R1669 を制定し、それを ISO 規格として提案し ISO 26602 発行を主導。
8	さかい こうじ 堺 孝司	日本サステイナビ リティ研究所 代 表	ISO/TC71（コンクリート、鉄筋コンクリート及びプレストレストコンクリート）/SC8（コンクリート及びコンクリート構造物の環境マネジメント）を新設するとともに、国際議長を務め、ISO13315（コンクリート及びコンクリート構造物の環境マネジメント）シリーズの国際標準化に尽力。また、ISO/TC71 対応国内委員会において、副委員長、委員長を務め、コンクリートに係る ISO 作成で要の役割を担い、数多くの日本提案を反映させるなどに大きく貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
9	さかもと しずお 坂本 静生	日本電気株式会社 第二官公ソリューション事業部 主 席技術主幹	JTC1/SC17（カードと個人識別）/WG3（機械可読渡航文書）及び関連委員会において IC パスポート（累計 106 ヶ国 10 億枚超発給）に関し継続的かつ国際的な貢献。また、同 SC37（バイオメトリクス）/WG3（バイオメトリクスデータ交換形式）国内小委員会幹事、SC17/WG4・WG11（IC カード、カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用）国内委員会主査、両 SC 間の国際標準を相互に活用するための ISO/IEC 7816-11（バイオメトリクスを用いた本人確認）国際エディタとして多くの国際規格審議・制定に貢献。
10	さと たつお 里 達雄	国立大学法人東京 工業大学 名誉教 授	ISO/TC79（軽金属及び同合金）及び同 TC 傘下 4 つの SC に関与し、国際議長や国内審議委員会委員長を務め、多くの ISO 規格の制定・改訂で日本製品の国際競争力強化に寄与するとともに、日本工業標準調査会非鉄金属技術専門委員会委員長や JIS 原案作成委員会委員長として多数の JIS 制定・改廃に取り組む等、軽金属関連における国際規格及び国内規格の標準化体系の整備に尽力。
11	しおはた こうき 塩幡 宏規	国立大学法人茨城 大学 名誉教授	ISO/TC108（機械の振動・衝撃・状態監視）国内調査委員会委員長等として国内意見を取りまとめるとともに、TC108 の日本代表やエキスパートとして日本案の反映に貢献。また、認証事業に関する ISO 規格の JIS 化において、原案作成に尽力するとともに、認証事業の品質管理の確保に貢献。
12	しんどう かつひさ 進藤 勝久	学校法人近畿大学 名誉教授	ストーマ装具（人工肛門・人工膀胱装具）に関する JIS 制定に深く関与。また、ストーマ装具の防臭性などの試験方法、皮膚に貼り付ける皮膚保護剤の国際標準化に関しコンビーナとしてリーダーシップを発揮し、ISO 規格・JIS 制定に尽力。特に日本以外の参加国を説得し、賛成国のとりまとめやロビー活動において貢献。
13	たお ひろあき 田尾 博明	国立研究開発法人 産業技術総合研究 所 四国センター 所長	工場排水試験方法等の環境測定 JIS 及び分析化学用語等の分析化学関連 JIS の制定・改正を委員長等として長年主導。また、ISO/TC146（大気（の質））及び TC147（水質）のコンビーナとして国際標準化を推進するとともに、TC147 国内審議委員会委員長として国内意見を集約し、分析技術の国際的普及に貢献。これらの活動により、環境保全・循環型社会形成に大きな役割を果たし、環境計測産業の国際的産業競争力強化に貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
14	なかたお ひろし 中峠 宏	一般社団法人日本鉄鋼連盟 標準化センター事務局 主査	棒鋼線材及び原料の物理試験規格の JIS 原案作成委員会主査として、JIS と ISO との整合化に貢献するとともに、多くの ISO 規格の制定・改訂において日本意見を反映。特に、ISO/TC17 (鋼) /SC1 (化学成分の定量方法) の国際幹事を務め、鉄鋼製品取引における化学成分値保証の国際的な信頼性向上に貢献。さらに、ISO/TC17/SC4 (熱処理鋼、合金鋼)、ISO/TC17/SC16 (鉄筋及びプレストレストコンクリート用鋼)、ISO/TC17/SC17 (線材及び線製品) 及び ISO/T102 (鉄鉱石及び還元鉄) /SC3 (物理試験方法) の 4 つの SC において、日本代表、国内委員会委員長及び WG コンビナーとして規格化を主導し、JIS との整合化を推進。
15	にし としお 西 敏夫	国立大学法人東京大学 名誉教授 国立大学法人東京工業大学 名誉教授	ISO/TC45 (ゴム及びゴム製品) 国内審議委員会に新たに免震ゴム・ゴム支承分科会を創設し、初代主査、JIS 原案作成委員会委員長として日本の免震ゴム業界の規格開発を主導。地震災害の縮小に貢献。また、ISO/TC45/SC4 (製品(ホースを除く)) /WG9(免震ゴム) のコンビナーを務め、日本発の免震用積層ゴムの国際標準化を主導。さらに、免震技術とそれを支える ISO、JIS の役割を広く啓蒙し普及活動に積極的に従事するなど、国内外での多方面の活動により海外と強い信頼関係を構築し、TC45 における日本の存在感を大きく高めることに貢献。
16	はまだ けんじろう 濱田 健 次郎	安川コントロール株式会社 企画部 事業企画課 事業企画担当	IEC/TC94 (補助継電器) /MT6 (リードスイッチ) のコンビナーを務め、主にリードスイッチ規格の制定・改訂を主導。また、MT3 (エレメンタリリレー) のエキスパートとして、IEC 61810 規格群 (一般リレー) の信頼性等日本提案への意見の反映に貢献。さらに、事業戦略と連動した国際標準化制定の重要性に関する講演や学会論文発表を行い、啓蒙活動にも尽力。
17	ふるた きよと 古田 清人	キヤノン株式会社 環境統括センター 所長	電機電子機器製品に含有される化学物質の表明様式に関する国際規格 (IEC 62474) の規格化に関与し、我が国において浸透している表明様式のガイドラインや管理データベースのデータ構造を当該国際規格に反映することに尽力。また、企業における化学物質規制に関し、企業内の管理手順の手法に関する国際規格 (IEC 63000) の規格化において、日本の管理手法を当該国際規格に反映することに尽力。

NO	氏名	所属	主な功績
18	やお てつや 矢尾 哲也	株式会社テクノス ター 技術顧問	ISO/TC8（船舶及び海洋技術）/SC8（船舶設計）のエキスパート、国内対応委員会委員長として、船舶の安全確保に重要な船体構造の評価等に関する国際規格の制定、適正化に尽力。日本提案による制定とともに多数の国際規格に日本意見を反映。また、SC8で審議中の複数の規格について、日本提案を反映させつつある。
19	やなぎ ただし 柳 正	一般社団法人日本 照明工業会 技術 部 部長	工業会の技術委員会委員長、委員、事務局として活動し、JIS原案やIEC規格審議における国内意見調整に尽力。IEC/TC34（ランプ類及び関連機器）/SC34A（ランプ類）/PRESCO（注：規格作成・審議チーム）傘下の有機EL製品規格プロジェクトチームのエキスパートとして、有機EL照明の規格開発において、次世代照明市場の健全化に資する国際標準化推進に貢献。
20	やまだ たかひろ 山田 隆弘	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発 機構 宇宙科学研究 所 研究主幹・ 教授	宇宙データシステム諮問委員会（CCSDS、NASA等の世界の公的宇宙機関が設立した団体）の作業部会長等を歴任し、多くの国際標準規格を執筆。同規格はISO/TC20（航空機及び宇宙機）/SC13（宇宙データ及び情報転送システム）からも発行され、これらは世界中のほとんどの人工衛星で広く活用されている。

[五十音順、敬称略]

## 組織

NO	組織名	主な功績
1	特定非営利活動法人接着剤・接着評価技術研究会	ISO/TC61（プラスチック）/SC11（製品）/WG5（接着剤）において、日本の ISO 対応組織として顕著なリーダーシップを発揮。接着剤の評価法を ISO への提案、接着剤の試験法に関する JIS 開発を実施。トップスタンダード制度（新市場創造型標準化制度）を活用し、ISO/TC61/SC11/WG5 及び SC13（複合材料及び強化用繊維）において、日本提案を推進し、我が国の国際標準化に大きく寄与。
2	株式会社悠心	新市場創造型標準化制度により JIS Z 1717（包装-液体用高機能容器）として JIS 化し、新たな液体用容器（パウチインディスペンサー：PID）の新市場を創出。PID は、容器を開封した後でも液体の鮮度を維持することができる構造で、新世代の容器として市場を拡大している。醤油製品のパッケージとして採用された他、飲料、調味料、化粧品関係の引き合いが数多くある。

平成29年度国際標準化貢献者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

NO	氏名	所属	主な功績
1	あかつ ようすけ 赤津 洋介	国立大学法人名古屋大学 国際教育交流本部 特任教授	ISO/TC204（高度道路交通システム(ITS)）/WG14（走行制御）のコンビーナとして、ITS分野の国際標準化活動を推進。特に、協調システムの国際標準に対し技術的内容に矛盾のある欧州規格ができたのを契機に、ETSI（欧州電気通信標準化機構）とC204/WG14とのリエゾンを構築し、この相互矛盾の解消に貢献。また、国内においてはTC22（自動車）とTC204との国内対応委員会間の連携組織である自動運転標準化検討会の委員長として、自動運転技術の標準化を日本が戦略的に主導するため、両TCに跨る数多くの作業項目を整理し、戦略及びロードマップを策定する活動を推進。
2	いしい けいすけ 石井 啓介	株式会社本田技術研究所 四輪 R&Dセンター（栃木）商品・感性価値企画室 第2ブロック 主任研究員	ISO/TC22（自動車）/SC9（操縦性・安定性）/WG1（用語）の日本代表エキスパートとして、乗用車と大型車を含めた規格策定に貢献。特に ISO 8855（操縦性及び安定性に関する用語）の全面改訂において、近年の技術動向を反映させ、大型車と連結車両を適用範囲に含めることによる新しい用語の追加、日本意見を反映した用語定義の見直しにより、自動車業界で広く適用できる国際標準化に貢献。
3	いしくま とおる 石隈 徹	アズビル株式会社 技術標準部 国際標準化担当部長	産業分野のエネルギー効率に関する国際標準化を中心に、エネルギー効率及びオートメーション・システムの新しい市場を切り開くべく活躍。特に、IEC/TC65（工業用プロセス計測制御）WG17（産業施設とスマートグリッド間システムインタフェース）のコンビーナとして、TS 62872（産業施設とスマートグリッド間システムインタフェース）Ed.1の発行実現に貢献。
4	いとう ひでお 伊藤 日出男	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 東北センター 所長代理	IEC/TC86（ファイバオプティクス）/TC91（電子実装技術）/JWG9（光実装部品）のセクレタリ、コンビーナとして、日本が強みとする光電子実装技術の標準規格の出版・維持、国際及び国内の委員会の運営など日本が主導した標準確立に貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
5	えのもと たけお 榎本 健男	三菱電機株式会社 名古屋製作所 ド ライブシステム部 専任	日本メーカーの国際競争力強化のために、IEC/SC22G（可変速電気駆動システム）国内委員会等の委員として活動。日本発の高速フィールドバスシステムの競争力向上のため、ドライブプロファイル規格を MT16（メンテナンスチーム）エキスパートとして作成、規格化を実現。また、MT12（メンテナンスチーム）エキスパートとして日本の競争力が向上する方向にドライブ装置の機能安全規格の改訂を牽引。
6	えんどう いさお 遠藤 功	みずほ情報総研株 式会社 環境エネ ルギー第2部 調 査役 兼 株式会社日立 製作所 研究開発 グループ 技術戦 略室 チーフアー キテクト室 チ ーフアーキテクト	ISO/TC268（持続可能な都市とコミュニティ）/SC1（スマート都市インフラ）の国際幹事として、規格開発に貢献。柔軟な発想力と行動力/リーダーシップを発揮して会議運営を行い、日本提案の規格の開発に貢献。また、関連する様々な会合（ワークショップなど）にも参加し、日本の当該分野のプレゼンス向上に貢献。
7	かとう あきら 加藤 明	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発 機構 安全・信頼 性推進部 特任担 当役	ISO/TC20（航空機及び宇宙機）/SC14（宇宙システム及び運用）の設立時に国内検討体制の構築を支援。主にWG3（運用分科会）及びWG7（デブリ分科会）のプロジェクトリーダー及びエキスパートとして、「デブリ低減要求」、「再突入安全管理規格」、「デブリ対策設計・運用ガイドライン（宇宙機用・ロケット用）」など、多数のデブリ関連規格の提案・制定に貢献。
8	さいとう あきら 斉藤 章	一般社団法人日本 ゴム工業会 ISO/TC45 国内審 議委員会 シニア エキスパート	ISO/TC45（ゴム及びゴム製品）/SC2（試験及び分析法）/WG5（化学試験法）のプロジェクトリーダー及び ISO/TC45 国内審議委員会分科会主査として、多くのゴム及びゴム製品における国際標準化に貢献。これらの国際規格により、優れた日本製品の国際市場への普及を促進した功績は大。

NO	氏 名	所 属	主 な 功 績
9	たかぎ りょう 高木 亮	工学院大学 工学 部電気電子工学科 教授	IEC/TC9 (鉄道用電気設備とシステム)において IEC 62864-1 (車上電力貯蔵システム 第1部 シリーズハイブリッドシステム) や IEC 62924 (地上電力貯蔵システム) のプロジェクトリーダー、IEC 62928 (駆動装置用リチウムイオン電池) のエキスパートとして国際標準化を推進。特に車上電力貯蔵システムにおいては、欧州勢がバッテリー駆動の車両の規格化を進めたのに対し、日本の使用実績のあるハイブリッド車両の内容を併記する方策を取り、国際規格制定の円滑な審議に貢献。
10	たなか しげやす 田中 滋 泰	日本ベルト工業会 ISO/TC 41 ベルト 国内審議委員会 事務局長	ISO/TC41 (プーリ及びベルト(Vベルトを含む)) /SC3 (コンベヤベルト) の国際幹事として、4回の国際会議を主催。国際会議及びISO投票において、日本の意見を反映させるべく尽力。特に、ISO規格とJISとの整合化に力点を置き、日本の産業界に貢献。 また、ISO/TC41の国内審議委員会・事務局長として、他のSC1(摩擦ベルト伝動)及びSC4(歯付ベルト伝動)においても日本意見の反映に尽力。
11	とくなが まさあき 徳永 雅 亮		IEC/TC68 (磁性合金及び磁性鋼) /WG5 (永久磁石材料) のコンビーナを務め、IEC 60404-8-1 (永久磁石材料) 及び IEC 60404-5 (永久磁石測定法) の改訂を提案し、高性能永久磁石材料及び我が国の測定技術を IEC 規格への反映に尽力。
12	なかざわ たけし 中沢 健	株式会社本田技術 研究所 二輪 R&D センター 企画室 第1ブロック 主 任研究員	機能安全規格の二輪車への適用を推進する活動を国内外で積極的に展開。ISO/TC22(自動車)/SC38(モーターサイクル及びモペット)/WG3(二輪機能安全)のコンビーナとして、ISO/PAS19695:2015(Motorcycles-functional safety)の発行に導くなど二輪業界における機能安全の国際標準化に貢献。
13	ながひろ ゆういち 永広 祐一	株式会社TBK 新製品開発部 テ クニカルアドバイ ザー	IEC/TC47 (半導体デバイス) /WG3 (電子部品の長期保管) に半導体品質信頼性のエキスパートとして参画し、日本意見を取り纏め国際規格へ反映するとともに、航空機や自動車など電子部品を長期に使用するユーザーとの意見調整にも尽力。現在は、コンビーナとしてリーダーシップを発揮し、長期保管信頼性の国際標準化に大きく貢献。

NO	氏 名	所 属	主 な 功 績
14	はら じゅんいち 原 潤一	株式会社リコー リコー未来技術研 究所 標準化戦略 グループ	JTC 1/SC 29 (音声、画像、マルチメディア、ハイパーメディア情報符号化) /WG 1(静止画像符号化:JPEG)の標準化活動に携わり、画像符号化の規格である ISO/IEC 15444-6 (JPEG 2000) (複合画像ファイルフォーマット)/AMD1、同第 2 版及び-14(XML 構造表示と参照)の標準化審議をプロジェクトエディタとして主導し、規格成立に貢献。
15	ひょうどう こうじ 兵藤 行志	国立研究開発法人 産業技術総合研 究所 情報・人間工 学領域 人間情報 研究部門 副研究 部門長	ISO/TC135 (非破壊試験) /SC8 (赤外線サーモグラフィ試験)のエキスパート、同 SC8/WG2 (一般通則)のコンビーナ、プロジェクトリーダーとして、ISO 10880:2017 (試験方法通則)の提案から制定までを主導し、ISO 10878:2013 (用語)、ISO 18251-1:2017 (システム性能表記)など当該 SC での全 ISO 規格策定に貢献。より広範な非破壊試験に赤外線サーモグラフィ技術が適切に信頼性高く応用されるよう、国内外の赤外線サーモグラフィ試験に関する標準化の一体的な推進に貢献。
16	ひろせ もとひろ 廣瀬 志弘	国立研究開発法人 産業技術総合研 究所 生命工学領域 健康工学研究部門 生体材料研究グル ープ 上級主任研 究員	ISO/TC150 (外科用インプラント) /SC7 (再生医療機器) /WG3 (硬組織用再生医療機器)のコンビーナとして再生医療評価技術に関する世界初の規格 ISO/TR 16379 (再生医療製品-DT(拡散テンソル)及び MR 画像を用いる関節軟骨の異方性構造の評価)の制定を主導するなど再生医療産業の創出・発展に貢献。
17	ふじた やすお 藤田 泰男	公益財団法人関西 文化学術研究都市 推進機構 超快適 スマート社会推進 室 総括コーディネ ーター	IEC 60065 (オーディオ、ビデオ及び関連電子機器の安全性)、60950-1 (情報技術機器の安全性)、62368-1 (オーディオ・ビデオ、情報技術、通信技術分野における電子機器の安全性)の標準化推進活動において貢献。特に、IEC 62368-1 においては、利害関係者と調整しつつ、HBSDT (ハザードベース標準規格開発チーム) エキスパートとして日本の意見の反映に尽力。
18	ほそかわ あきら 細川 晃	株式会社東芝 研 究 開発センター システム技術ラボ ラトリー 研究主 務	IEC/SC3D (電気・電子技術分野のメタデータライブラリ)において、プロジェクトリーダーとして IEC/TS 62656-2 (アプリケーションガイド)、-8 (ウェブサービス)の規格開発を主導。JIS C62656-1 (論理モデル) 原案作成委員会幹事として制定に尽力。SC3D 国内委員会幹事として、国内工業会からの IEC CDD (共通データ辞書) への日本提案や意見反映を支援。

NO	氏 名	所 属	主 な 功 績
19	むらかみ ちかひさ 村上 睦 尚	国立研究開発法人 海上・港湾・航空 技術研究所 海上 技術安全研究所 構造安全評価系基 準開発グループ長	ISO/TC8(船舶及び海洋技術)/SC3(配管及び機械)/WG13(金属性船用弁面間寸法)コンビーナ及びプロジェクトリーダーとして、日本提案の ISO 8277 (配管及び機械—情報伝達) 及び ISO 17602 (フランジ管用金属製弁—面間寸法) の策定を主導。また、ISO/TC188 (スモールクラフト) の国内対応委員会委員長として、国内意見を取りまとめ、日本意見として国際規格に適切に反映。
20	やまだ こうじ 山田 功二	スズキ株式会社 監査部 グローバ ル監査チーム 部 長	ISO/TC22(自動車)/SC38(モーターサイクル及びモペット)/WG4 (二輪 OBD コネクタ) のコンビーナとして、二輪自動車の故障診断用コネクタの規格開発に携わり、ISO 19689:2016(モーターサイクル及びモペット/OBDコネクタ)の制定に貢献。
21	やまもと きみあき 山本 公明	K M オプトラボ 代表	長年にわたり ISO/TC172(光学及びフォトンクス)/SC5 (顕微鏡及び内視鏡) 国内対応委員会委員長、WG9 (顕微鏡光学性能) コンビーナ等を務め、国際規格の策定、JIS 原案作成に尽力。我が国の顕微鏡に関する国内外の標準化に貢献。

[五十音順、敬称略]

平成29年度国際標準化奨励者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

NO	氏名	所属	主な功績
1	こむかい ひでき 小向 秀樹	東日本旅客鉄道株式会社 鉄道事業本部 電気ネットワーク部 信号システム管理センター 信号標準化推進グループ 主席	IEC/TC9（鉄道用電気設備とシステム）の信号部門に関する規格審議や事務局業務を通じて、日本により提案・主導した IEC TR62278-4（RAM リスクと RAM ライフサイクルの観点についての考察）の開発等をレポートとともに推進。日本が提案し、TS として発行された IEC TS62773（無線利用列車制御システムにおける無線システムの性能要求手順）の国際標準化活動や鉄道信号システム関係の国際規格審議を主導的に推進。
2	はまだ りら 濱田 リラ	国立研究開発法人 情報通信研究機構 経営企画部 企画戦略室 プランニングマネージャー	IEC TC106（人体ばく露に関する電界、磁界及び電磁界の評価方法）における高周波電磁界の評価方法に関する国際標準化活動に、エキスパートとして参画。同 TC の国際規格策定において、我が国の意見反映等に貢献するとともに、較正・不確かさ等を評価する手法の信頼性確保に関する事項について国際標準化会議の議論をリード。また、同 TC の国内委員会の幹事として、委員会資料・審議のための作業に尽力し、国内活動の円滑な運営及び活性化に貢献
3	やすたか てつお 保高 徹生	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 企画本部 総合企画室 企画主幹 兼 地質調査総合センター 地圏資源環境研究部門 地圏環境リスク研究グループ 主任研究員	ISO/TC190（地盤環境）/SC7（土及び現地評価）/WG6（溶出試験）のプロジェクトリーダーとして ISO/TS 21268-3（上向流カラム通水試験）について、日本の産業界の意向に沿った方法論の追記と恒常的な更新に尽力。同 WG6 のエキスパートとして ISO/TS 21268-2（バッチ溶出試験）の ISO 化と国内規格との整合化に尽力。また、水中の放射性セシウムのモニタリング技術に関する国内検討委員会及び、IAEA（国際原子力機関）との連携の下、国際精度評価試験の実施や各種モニタリング技術に関する技術資料作成等にも貢献。

[五十音順、敬称略]

平成29年度工業標準化功労者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

個人

NO	氏名	所属	主な功績
1	あさみ とよみ 浅見 豊美	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 本部 消費者提言特別委員会委員、事業委員会標準化部門担当	JIS 原案作成委員会において、消費者委員として参加し、消費者にとってわかりやすく、環境や安全性に配慮した JIS を目指して、その改正に尽力。消費者のための標準化セミナーの開催において事務局メンバーとして活動し、新しい「洗濯表示」や「子ども服のひもの安全基準」の JIS の消費者への普及・啓発に尽力。また、スマートメーターの JIS 原案作成委員会の委員としても尽力。
2	おか かずよし 岡 一嘉	日の本工業株式会社 代表取締役社長	船舶用バルブ及びこし器に係る多数の JIS の策定に貢献。取引の単純化のほか、製品の互換性、安全・安心の確保及び調達に寄与。また、船舶部門の JIS 原案作成委員会委員として、船用弁、船用照明器具、甲板機械及びぎ装品等に関する JIS 開発など幅広い分野における標準化活動に貢献。
3	おがた やすひろ 尾形 泰宏	一般財団法人日本規格協会 執行役員／要員認証ユニット長	ISO/CASCO（適合性評価委員会）において、長きにわたり、CPC（議長政策・調整グループ）及び STAR（戦略的提携・規制当局グループ）の日本代表を務め、適合性評価分野での CASCO 議長の政策策定に寄与。また、ISO/CASCO 国内対応委員会において長きにわたり委員を務め、ISO/CASCO に対する我が国の方針決定に寄与。
4	こまち ゆうし 小町 祐史	一般社団法人画像電子学会 国際標準化教育研究会 会員	ISO/IEC JTC 1/SC34（文書の記述と処理の言語）/WG2（文書情報表現）のコンビーナを務め、多数の国際規格の開発を推進。これらの国際規格に一致する JIS の開発を行うとともに、これらの規格の普及に寄与。
5	さとう たくろう 佐藤 拓朗	早稲田大学理工学術院 基幹理工学部 情報通信学科 教授	先端技術の開発と国際標準を情報通信分野における今後の最重要課題に据え、大学院・学部において標準化講座（企業ビジネスと国際標準化）を実施。同講座を大阪大学に配信するなど、他大学にも普及。標準化教育普及に貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
6	しもさかい けんいち 下境 健一	一般財団法人日本規格協会 理事／管理ユニット長	JIS・国際規格・海外規格販売関係業務に従事し、広く産業界に規格情報の普及推進。規格情報の電子媒体提供を進めるとともに、標準化関連書籍を発行。ISO/CPSG（販売政策諮問グループ）及び IEC/SAG（販売諮問グループ）の日本代表メンバーとして、国際規格における販売政策の検討・立案に参画するとともに、ISO、IECの著作権方針に基づく規格情報の適正な普及に尽力。
7	はっとり しゅうじ 服部 修次	国立大学法人福井大学 学術研究院工学系部門 特命教授	ISO 眼鏡枠部会専門委員会の委員長及び幹事として、ISO 事務局との英文での通信、国際会議での英語公用語による討議、日本サイドの意見の発表で貢献。また、ISO/TC172（光学及びフォトニクス）/SC7（眼光学及び関連機器）/WG2（眼鏡フレーム）エキスパートとして ISO 規格の規格策定に参加。さらに、JIS 原案作成委員会委員長として、ISO 規格の中で重要なものについて JIS を制定し、国内の規格整備にも貢献。

[五十音順、敬称略]

## 組織

NO	組織名	主な功績
1	株式会社池田泉州銀行	標準化活用支援パートナーシップ制度における標準化活用支援パートナー機関として、同行内の行員への教育・体制整備、関係者及び地域の企業への普及啓蒙活動を推進。これらの活動により多くのテーマが発掘・提案され、既に3テーマが新市場創造型標準化制度のテーマに採択。これらは、他の標準化活用支援パートナー機関の模範となる活動。
2	学校法人金沢工業大学	日本初となる国際標準化戦略プロフェッショナルコースを設置。標準化制度の普及・啓発、教育・研究活動を行い、人材養成機関として、我が国の国際標準化の推進に貢献。幅広く第一線で活躍する実務者への標準化制度の普及啓発及び実務能力育成に寄与。
3	関西学院大学 専門職大学院 経営戦略研究科	「標準化」を「経営戦略」に活用するための原理原則と実践論を学習する、標準化経営戦略の講義を実施。他大学、企業を含めた多彩な講師陣による講義の実践によりビジネスツールとしての標準化の役割を普及啓蒙。